

ミュビシギ *Calidris alba* (Pallas)

【選定理由】

以前からシギ・チドリの生息環境は干潟ということで、広い海に面した砂浜に生息するシギ・チドリは調査の対象ではなかった。かつて渥美半島の太平洋に面した海岸や、伊勢湾に面した西ノ浜の砂浜などには、30羽～50羽の群が幾つも普通に見られた種である。こうした砂浜はサーフィンや釣りなどで多くの人が利用するようになり、安定して生息できる砂浜は減少している。

【形態】

全長 20～21cm、翼開長 40～45cm。夏羽は、頭部、上面、胸は赤褐色で黒色の軸斑があり、下面は白色。冬羽は、頭部、上面、胸は様な淡灰色で下面は白色。幼羽は、上面に黒色の軸斑があり白黒の格子柄に見える。嘴と脚は黒色で、後趾がなく趾は3本。



愛知県西尾市, 2009年9月27日, 高橋伸夫 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

太平洋沿岸や三河湾の島嶼などで越冬し、秋の渡りの季節には伊勢・三河湾の干潟などにも飛来する。

【国内の分布】

春秋の渡りで北海道から沖縄までの全国に渡来し、本州中部以南では越冬する。

【世界の分布】

シベリア中部、北アメリカ北部、グリーンランドで繁殖し、冬期は、オーストラリア、東南アジア、中近東、アフリカ、南北アメリカに生息する。

【生息地の環境／生態的特性】

越冬する環境は、広い海に面した砂浜で、寄せる波に追われ、引く波を追いかけながらせわしなく走り回り、ヨコエビなどの甲殻類などを捕食する。伊勢湾岸の砂浜では、観光化の進んだ愛知県側の知多半島では数が少なく、三重県側では生息数が多い。三重県内の沿岸各所に生息しているが、津市の2箇所だけでもほぼ毎年220羽以上が観察される（三重県農林水産部みどり共生推進課, 2015）。春は4～5月、秋は8～10月に渡り、この時期は河口の干潟にも少数が飛来する。

【現在の生息状況／減少の要因】

冬期は、主に豊橋市から田原市の太平洋（遠州灘）に面した沿岸部と、渥美半島先端で伊勢湾に面した田原市西ノ浜の砂浜で数十羽の群れが越冬しており、伊勢湾に面した知多半島沿岸や渥美半島の三河湾に面した小中山や伊川津の砂浜、および三河湾の島嶼でも1～10羽程度が越冬する。減少の要因として、砂浜への人の立ち入り増加と、特に太平洋沿岸では砂浜の後退が考えられる。

【保全上の留意点】

主な生息地が波のある海に面した広い砂浜であるため、レジャーにも適した環境である。愛知県の海岸は特にレジャー人口が多いことも特徴である。両者が共存するための雰囲気作りも、これからの自然保護には必要なことと思われる。

【特記事項】

近年の調査により、砂浜の少ない三河湾の島嶼にある岩礁で少数が越冬しており、春の渡りを前にした時期には20羽を超える個体が岩礁で採餌していることが観察されている。

【引用文献】

三重県農林水産部みどり共生推進課, 2015. 三重県レッドデータブック 2015～三重県の絶滅の恐れのある野生生物～, p.66. 三重県, 津市.

【関連文献】

真野 徹, 1984. 黒田長久編, 決定版 生物大図鑑 鳥類, p.124. 世界文化社, 東京.

（高橋伸夫）